

けいはんな学研都市の一翼を担う木津川市（大学、国立研究所、民間企業、合わせて30の学研施設↓）

関西文化学術研究都市（学研都市）は、国家的プロジェクトとして位置づけられた学術研究都市建設構想です。（中略）木津川市にも、（公財）国際高等研究所（IIAS）、（公財）地球環境産業技術研究機構（RITE）、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 関西光科学研究所（QST）といった多くの研究施設をはじめ、光をテーマにした科学館「きつづ光科学館ふおとん」など、全国的にも珍しい体験施設があります。（木津川市HPより）

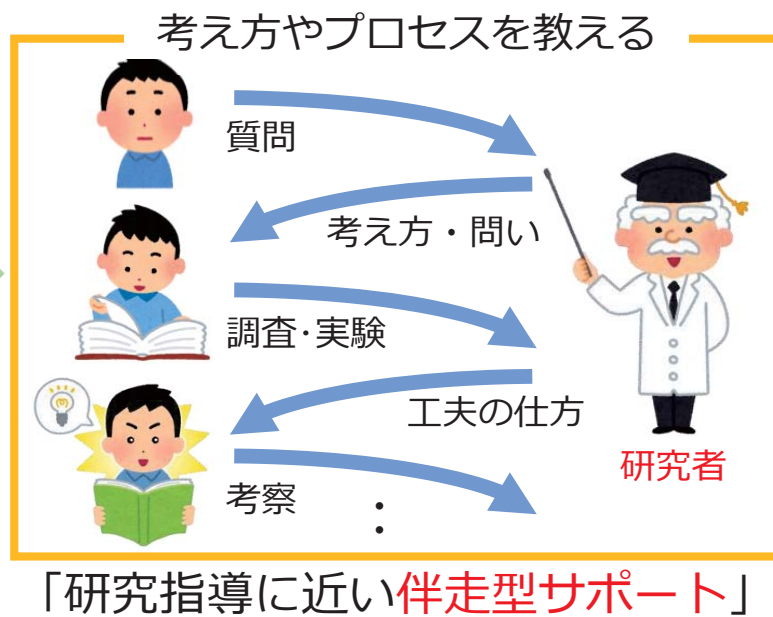


木津川市はさまざまな分野にまたがる「研究者、研究のプロ」が身近にたくさんいる街。

次世代の理系人材に考える力をたくさん身につけて欲しい！



身近に「研究者、研究のプロ」がたくさんいるという木津川市の特色を生かした、こどもたちが教えを求めやすい、こどもたちに教えやすい仕組みを整える事業の構想を目指した。



木津川市を中心とした、各学研施設の研究者とこどもたちを繋ぐ仕組みを作りたい

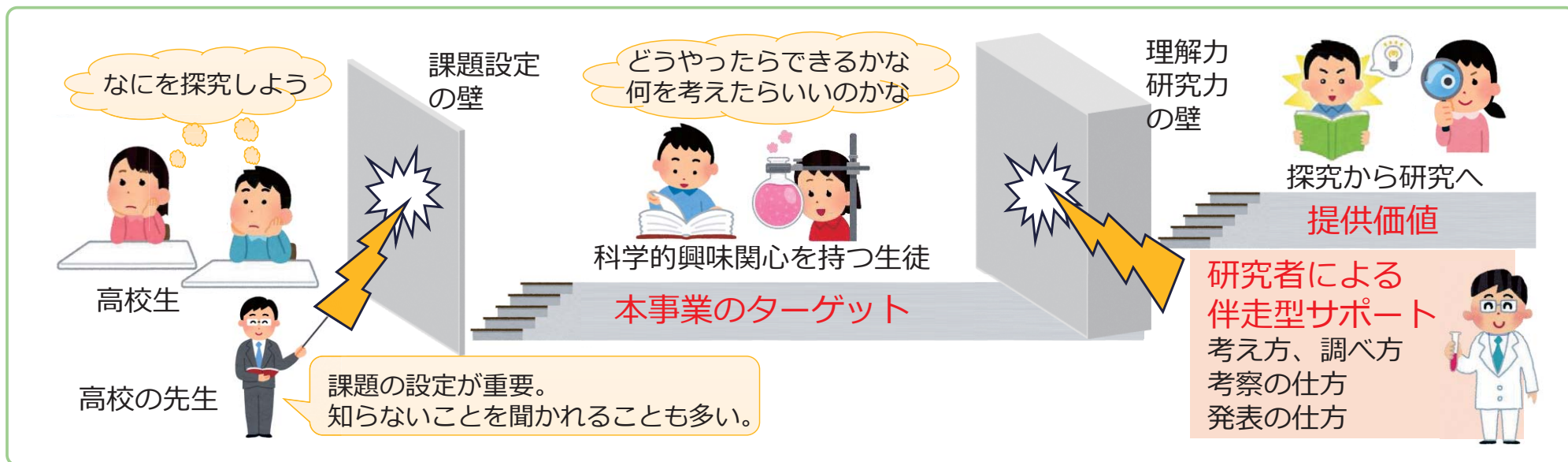
学研施設・木津川市・学校による連携包括協定



次世代の理系人材の育成やこどもたちの教育に貢献したいと考えている研究者が個々にボランティア活動するのではなく、学研施設と市が連携してサポートすることで木津川市の特色を最大限に活用できる体制を目指す。

伴走型のサポートの例1：高校の総合的な探究学習（フィールドワークより）

探究学習のポスター発表会の見学を通じて、魅力的な課題を設定して探究活動している生徒が多くいることに感銘を受けると共に、もう1歩踏み込んだ考察や実験手順があると探究から研究になる発表が多数あった。



伴走型のサポートの例2：自然科学部などの部活動（フィールドワークより）

分かりやすいプレゼンテーション資料の作り方をアドバイスしたり、実験データの考察の進め方、表計算ソフトを利用したデータ解析方法などを手助けすることで理解が深まる様子が目に見え、サポートの重要性を実感した。

「2040年に理系人材が百万人不足」の試算が文科省の有識者会議で示され、理系人材を育成の重要性が増している。「研究者、研究のプロ」が多いという木津川市の強みを生かして、次世代の理系人材の芽を育てる環境を実現したい。